

日々研鑽 ～職員が取得している資格を紹介します～



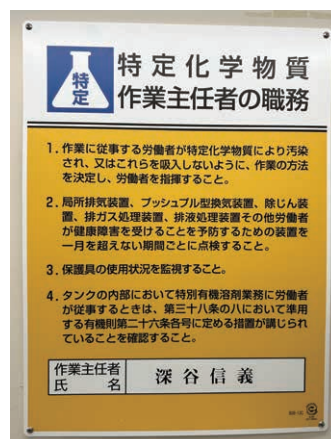
当院の職員は、患者さんにより質の高い医療を提供するために、入職後も日々研鑽を続け、それぞれ特定の分野において高度な知識と技術、経験を積むことによって得られる様々な資格を取得しています。この連載では、資格を得るための条件や流れ、資格取得後の働き方などについてご紹介していきます。

特定化学物質作業主任者

化学物質は、産業界のみならず、私たちの日常生活のさまざまな場面において、広く使われている不可欠な物ですが、その取り扱いが不適切である場合には労働者の健康に重大な影響を与えます。

このため、化学物質のうちでも、特に、癌、皮膚炎、神経障害その他の健康障害を発生させる恐れがある化学物質による障害予防のため、特定化学物質障害予防規則(特化則)が制定されています。

労働安全衛生法令は、これらの対象物質を取り扱う作業については、技能講習を修了した人から、特定化学物質作業主任者を選任しなければならないことを規定しており、私ともう1名の検査技師がその資格を取得しております。



病院において健康障害を引き起こす恐れのある化学物質にはどのような物があるでしょうか。

① ホルムアルデヒド

用途:みなさんが内視鏡や手術などで採取された組織の固定(タンパク質の腐敗を防ぐ)をするために使用します。

有害性:発癌性。皮膚を刺激し硬化させ、ひび割れ、潰瘍を生ずる。蒸気は眼を刺激し、涙が出る。吸入すると、粘膜が刺激され咳が出る。慢性症状として肝臓、腎臓の障害が起こる。感作性(アレルギー性)があり、化学物質過敏症(シックハウス症候群)の原因となる。

管理濃度:0.1ppm以下

② アンモニア

用途:みなさんから採取された組織の標本を作製する際に染色作業があり、その染料として使用されます。

有害性:皮膚、目、呼吸器共に刺激性が強く

5～20ppm 空気中で臭気を感じできる。

400～700ppm 眼鼻、咽喉の粘膜刺激。

1000ppm 激しい刺激で危険症状。

5000～10000ppm 短時間(数分)の曝露で死亡。

管理濃度:設定されてないが、許容濃度として25ppm

③ キシレン

用途:みなさんから採取された組織の標本を作製する際に、多く用いられます。

有害性:引火性薬品です。皮膚、目、呼吸器に強い刺激性。中枢神経系、呼吸器、肝臓、腎臓の障害。生殖能や胎児への悪影響の恐れがあるため女性労働者には特に注意が必要となります。

管理濃度:1ppm以下

代表的な化学物質をあげましたが、その他にもクロロホルム、塩素、シアン化カリウム、重クロム酸、硫酸など様々な化学物質を扱います。

そのためにはどんな装置や注意が必要とされるでしょうか。

✓ 局所排気装置

有害物質の発散源に近いところに空気の吸気口を設けて局部的かつ定常的な吸い込み気流をつくり、有害物質が周囲に拡散する前になるべく発散したときのままの高濃度の状態で吸い込み、作業者が汚染された空気に曝露されないようにします。

また、吸い込んだ空気中の有害物質をできるだけ除去してから排出する装置です。



局所排気装置

✓ 防毒マスク

直結式小型防毒マスクを使用します。防毒マスク用吸収缶を使用して、有害物質を吸着させて作業者の安全を守ります。吸収缶には用途に合わせて、ホルムアルデヒド用、有機ガス用、アンモニア用、酸性ガス用、ハロゲンガス用など様々あるので用途に合わせて交換します。



防毒マスクとゴーグル

✓ ゴーグル

目を有害物質から保護するためのゴーグルです。

当院では年2回、環境測定として、ホルムアルデヒドとキシレンの作業環境測定を行い、作業場とその周辺が前述された管理濃度以下に保たれているかを第三者機関で測定してもらい、その記録を30年間保存しています。

その他、作業主任者の業務として、局所排気装置が正常に作動しているか、ひと月を超えない期間ごとに点検し、保護具(防毒マスクやゴーグル)の保管状況や使用期限を点検しています。

上記にあげた責務もありますが、作業主任者としての大切なことは、日常でもしものは起こりうることを想定し、万が一の応急処置の実践と、作業者の特定有機溶剤に対する健康診断や歯科検診を継続し、健康被害を随時監視していくことが必要と感じています。

(臨床検査科 副技師長 深谷 信義)